YS MAIL

Yokohama Seibi

1月号

社内報　第229号

発行日　2026年1月25日

株式会社　横浜セイビ

発行責任者:津幡　哲也

電話　045-871-8394

FAX　045-871-8374

年間テーマ：『共有・共感・共振・共鳴』～成長はみんなのために～

創業４５周年感謝と共に

新年を迎え早くも２５日と時の流れが一段と早く感じられるようになりました。社会も地球も変動していく今日ですが時代の機を捉え果敢に挑む年にしていきたいと思っています。

さて、４５周年の時の流れは過ぎてしまえばスーと早いものです。この間の成長はチーム横浜セイビが一体となり事に挑み乗り越えた時代でした。４０周年記念誌のとおり、これまでのトップダウンから社長、津幡、鈴木を中心とした集団指導体制へと変わってきています。こうして文殊の知恵を重ねながら、積み重ねたお得意様の基盤を活かし更なる広がりを高めていくことを期待しています。社員の皆様にはこれまでの信頼をより高め横浜セイビに任せて良かったと多く聞かれるようお願いします。経済社会は大きく変動してきました。デフレからインフレの時代です。私たちの事業はインフレの時代は少ししか経験していません。

インフレの時代は生産性（最小費用の最大効果を出す）が問われます。機械化、ムダ・ムラを見直し、これまでと違った道具そして少ない人数でもやれる改善が求められます。もちろんお客様満足は欠かせません。今までと同じ作業、業務からチャレンジする現場づくりに励んで変化していく一年を期待致します。

最後に職場の安全が気に掛かります労働災害事故が増えているからです。安全あっての現場と職場です。一日でも多く仲間として働いて下さるよう願っています。４５年記念式での元気なみなさんを夢見ています。

ご苦労様です。

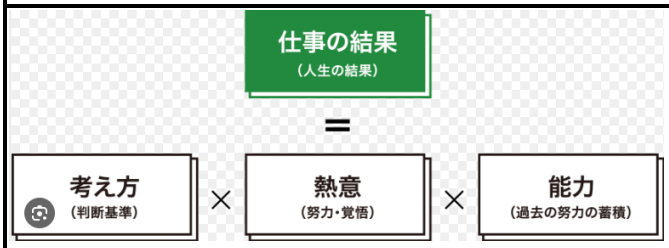
取締役会長　川口　健治

どう捉えるかで大きく変わる

私たちは今、どのような時代に生きているのでしょうか？大変動の時代、歴史的な潮目の最中などいろいろな言われ方をされています。日本国としては、少子高齢化、医療費高騰で国が持たない。。。など表現のしかたも悲観的な言われ方が大半です。しかしながらこれも見方を変えて、高齢社会の少子化に歯止めがかからないということを逆手に取ってみてはどうでしょうか？

世界で一番最初に日本がその変動へと突き進むということは、一番最初に知恵を絞りこの難局を乗り切れると考えれば、それを今後は世界どこでも転用することができるとなるのであれば、ピンチがチャンスにつながるのではないでしょうか？

恐竜がなぜ生き残れなかったのか。それは、変化に対応できなかったからです。外部環境が大きく変化し、今までの当たり前や前提が通用しなくなってきているのも事実です。しかしながら、それを理由に変われなければ市場からの退出以外なくなってしまいます。



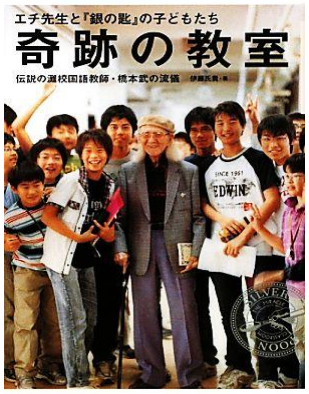
縁の下の力持ちである私たちだからこそ変化に敏感に、順応して横浜セイビさんにお願いして良かったと言われるサービスを共に創り上げていきましょう。

一番寒い季節ですので体調万全に宜しくお願いします。

代表取締役社長　川口　大治

無用の用・直ぐに役立つものは・・

ノーベル賞を受賞された北川先生の座右の銘「無用の用」・・一見意味の無いように見えるものが実は重要な役割を担っているの意ですが、昨今は損か得かの価値判断で効率効果を追求し続ける息苦しい社会になっているように感じます。コスパの良さを重要視される世相に思います。以前は辞書や図鑑で調べたものがネットで直ぐに答えが分かるようになりました。仕事や生き方・専門分野もハウツー本で調べ、何となく解かった気になります。灘高で50年間国語教師として教壇に立たれた橋本武先生の「銀の匙」という文庫本を3年間かけて徹底的に読み解き、教科書を使用しない奇跡の授業を思い出しご紹介させてもらいます。中勘助著の本で主人公が十代の少年で子供たちを合わせやすく日本語の美しい本で、竹馬の場面では竹馬を作り、凧揚げの場面では実際に凧揚げをし、桃の節句の場面では五節句に行われる風習を学ぶというように子供に興味を持たせ考えさせ、知識だけを教えるだけでなく横道にそれながら丁寧に追体し学んでいく授業です。昔は公立校のすべり止めだった灘高に赴任され東大合格者日本一につなげた奇跡の授業です。子供は興味のあることには目の色を変え吸収するもので、無理に押し付ける中では聴いてはいても自分の物になっていかないものですね。

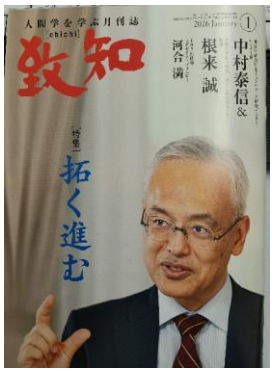


上記の先生を取り巻く生徒の表情の笑顔、目の色も違います。急がずスローリーディングの考え方も現代に求められているかもしれません。すぐに役に立つものはすぐに役に立たなくなる、一つ一つが解に辿り着く近道かもしれません。

事業統括　津幡哲也

第53回社内木鶏会

今月のテーマは「拓く進む」です。分野を問わずに未開の地を拓き進むことで人類は文化を文明を発展させてきた。昨年10月に日本人科学者がノーベル賞を受賞されました。科学の分野は私達一般人は未知の分野でその功績を詳細まで理解することは難しいですがお二人ともに不運もあり、認められず不遇の時期が長く続いた中でも五十年もの歳月を、価値を拓くべく研究を続けてこられました。お二人の座右の銘を紹介させてもらいます。坂口さんは「一つ一つ」で直面する一つ一つの問題・課題に誠実に向き合われたコツコツ解決し大輪の花が咲き、北川さんは「無用の用」で、人が役に立たないと振り向かないものの中に価値を見出し、その価値を拓くべく歩み続けられたとあります。拓き、突き進み、粘り強い努力で道が完成されました。拓く進むはあらゆる創造の原点、研究の99%が失敗で、でもその失敗をどう解釈するかで次の一歩が決まる。とても含蓄ある言葉だと思います。



訃報

千葉敏昭さん（享年80歳）が1月13日にお亡くなりになりました。勤続32年の長きにわたり社業発展に多大なる貢献をしていただきました。機動班では朝晩問わずに、コルトンプラザでも多摩病院の勤務においても大船の自宅から始発電車で通勤され、他の人では真似ができない勤務体制の中でも、持ち前の気合と根性で皆の先頭に立って現場仕事を黙々と頑張っていただきました。今は働き方の問題もありますが、社員の鏡でした。千葉さんありがとう、感謝感謝・合掌。

無災害記録　124日（1月20日現在）

1月に誕生日を迎えられた皆様です

お誕生日おめでとうございます

素敵なお誕生日をお迎えください。

◇編集後記

皆さん今年もよろしくお願いします。健康に気をつけ、いい一年にしましょう。